

県営ほ場整備事業（大海地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

宝達志水町

# 冬野遺跡・免田一本松遺跡

2005

石川県教育委員会  
(財)石川県埋蔵文化財センター

ふゆ の 冬野遺跡・めん でん いっ ほん まつ 免田一本松遺跡

2005

石川 県 教 育 委 員 会  
(財)石川県埋蔵文化財センター



宝達山からのぞむ遺跡周辺



冬野遺跡B区 SK06



冬野遺跡B区 SI01土層



冬野遺跡B区 SI01

## 例 言

- 1 本書は冬野遺跡・免田一本松遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡は宝達志水町冬野地内である。
- 3 調査原因は県営ほ場整備事業（北大海地区）であり、同事業を所管する石川県農林水産部農業基盤整備課（旧農地整備課）が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成14年（2002）年度から平成16（2004）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査にかかる費用は、石川県農林水産部農業基盤整備課と、文化庁の補助を受けた石川県教育委員会が負担した。
- 6 現地調査は平成14（2002）年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期 間	平成14（2002）年 9月18日～同年12月24日
面 積	冬野遺跡            510m <sup>2</sup>
	免田一本松遺跡    60m <sup>2</sup>
担当課	調査部調査第2課
担当者	本田秀生（調査専門員）、林 大智（主事）、谷内明央（主事）
- 7 出土品整理は平成15年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書の刊行は平成16年度に実施し、調査部調査第2課が担当した。執筆、編集は本田秀生（調査部調査第2課調査専門員）が行った。
- 9 調査には下記機関の協力を得た。

石川県農林水産部農業基盤整備課、中能登農林総合事務所（旧羽咋農林総合事務所）、宝達志水町教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
  - (1) 方位は真北である。
  - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。

## 目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と周辺の遺跡	4
第1節 遺跡の位置	4
第2節 周辺の遺跡	5
第3章 冬野遺跡	8
第1節 概 要	8
第2節 遺構と遺物	8
1. A 区	8
2. B 区	9
3. C 区 (第14～15、18図)	10
4. D区・試掘調査区 (第16～18図)	11
5. その他の遺物 (第19図)	11
第3節 小 結	11
第4章 免田一本松遺跡	28

## 挿図目次

第1図 調査区位置図	3	第11図 B区遺構実測図(4)	19
第2図 遺跡の位置	4	第12図 B区遺物実測図(1)	20
第3図 周辺の遺跡	6	第13図 B区遺物実測図(2)	21
第4図 A区遺構実測図(1)	12	第14図 C区遺構実測図(1)	22
第5図 A区遺構実測図(2)	13	第15図 C区遺構実測図(2)	23
第6図 A区遺構実測図(3)	14	第16図 D区遺構実測図(1)	24
第7図 A区遺物実測図	15	第17図 D区遺構実測図(2)・試掘抗土層図	25
第8図 B区遺構実測図(1)	16	第18図 C区・D区・試掘抗遺物実測図	26
第9図 B区遺構実測図(2)	17	第19図 冬野遺跡採集遺物実測図	27
第10図 B区遺構実測図(3)	18	第20図 免田一本松遺跡・遺構・遺物実測図	28

## 表 目 次

第1表	遺跡地名表	7	第3表	石器、金属器、木器計測表	30
第2表	土器観察表	29			

## 図版目次

図版1	航空写真 (昭和61年) 冬野遺跡・免田一本松遺跡 (昭和61年) 冬野遺跡 (昭和61年)		
図版2	航空写真 (昭和61年) 冬野遺跡 (昭和61年) 免田一本松遺跡 (昭和61年)		
図版3	遺構(1) 冬野遺跡A区 (西から) 冬野遺跡A区 (東から)		
図版4	遺構(2) 冬野遺跡B区 (南から) 冬野遺跡B区 (南側) (北から)		
図版5	遺構(3) 冬野遺跡B区 (北側) (北から) 冬野遺跡C区 (東から)		
図版6	遺構(4) 冬野遺跡D区 (東から) 免田一本松遺跡 (東から)		
図版7	遺構(5) 免田一本松遺跡 (西から) 冬野遺跡A区調査前 冬野遺跡C区調査前	冬野遺跡B区調査前 冬野遺跡D区調査前	
図版8	遺構(6) A区 SD01 A区 SK01 A区 SK02土層 A区 SK03	A区 SD01土層 A区 SK01土層 A区 SK02土層 A区 SK03土層	
図版9	遺構(7) A区 SK04 A区 SK09 B区 SI01床面 B区 SI01	A区 SK04土層 A区 SX01 B区 SI01床面 B区 SI01壁溝内遺物	

図版10	遺構(8)	B区 SI01床面下面 B区 SI02 B区 SI03焼土面 B区 SK05	B区 SI01土層 B区 SI03 B区 SI03焼土面 B区 SK07
図版11	遺構(9)	B区 SK08 B区 SK06 C区作業風景 D区作業風景	B区 SK10 B区 SK06土層 C区出土遺物 試掘調査作業風景
図版12	遺構(10)	調査区から望む宝達山 試掘抗 NO. 2 土層 免田一本松遺跡より望む冬野遺跡 冬野遺跡丘陵裾土器出土地点	試掘抗 NO. 1 土層 試掘抗 NO. 3 土層 冬野遺跡丘陵裾土器出土地点 冬野遺跡丘陵裾土器出土状況
図版13	遺構(11)	免田一本松遺跡調査前 免田一本松遺跡作業風景 免田一本松遺跡調査区 免田一本松遺跡 P01土層	免田一本松遺跡表土除去作業 免田一本松遺跡作業風景 免田一本松遺跡調査区土層 免田一本松遺跡 P01
図版14	遺物(1)	出土遺物(1)	
図版15	遺物(2)	出土遺物(2)	
図版16	遺物(3)	出土遺物(3)	
図版17	遺物(4)	出土遺物(4)	
図版18	遺物(5)	出土遺物(5)	



# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

冬野遺跡・免田一本松遺跡は昭和61年に国道159号押水バイパス建設の際発掘調査が実施されている。今回の発掘調査は県営ほ場整備事業（北大海地区）に伴うものである。平成13年2月27・28日に県農林水産部農業基盤整備課の依頼を受けた県教育委員会文化財課が対象地域の試掘調査を実施し、事業地内で遺跡の広がりを確認している。この結果を基に両者で協議が持たれ、排水路、パイプライン敷設工事で遺跡の破壊される部分について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は県教育委員会から委託を受けた財団法人石川県埋蔵文化財センターが、平成14年9月18日から同年12月24日にかけて実施した。調査面積は冬野遺跡が510㎡、免田一本松遺跡が60㎡である。

## 第2節 調査の経過

9月中旬に現地打ち合わせを実施した。調査は免田一本松遺跡から実施することとし、9月18日から重機による表土除去作業を開始することとなった。また、この時、冬野遺跡発掘調査箇所内の押水バイパス東側調査箇所の工事について、パイプライン敷設位置をずらして現況水路部分を利用し、遺跡の保護が図れないか打診している。

免田一本松遺跡調査区表土除去作業は、工事工程の関係から表土を調査区の横に置くことができず、キャリアダンプを使用して調査区西側に移動させたため、思いのほか時間がかかった。また、調査地点は丘陵と低地部の境にあたり、農道の開削によってかなり削平を受け、また、低地部にかかる部分からは湧水がかなりみられた。丘陵裾に位置するため、斜面上方からの雨水に対する対策も必要となり、20日から作業員を導入し、まず周辺の整備に取りかかった。25日には遺構の掘削を開始したが、その多くが近代以降の所産であった。唯一中央部で土坑を1基確認した。調査中に冬野遺跡調査区真下の丘陵裾部から遺物を採集している。9月いっぱい調査を終了したが、免田一本松遺跡の調査担当者の一人であった谷内が調査からはずれ、冬野遺跡の調査は林が加わることになった。

冬野遺跡の調査区は台地上をコの字状にめぐり、免田一本松遺跡側をA区、丘陵を横断するものをB区、前田川に面する部分をC区とした。また、C区下の低地部をD区として調査を進めることとした。10月3日に表土除去作業を実施している。押水バイパス側からの進入路が確保できず、重機は免田一本松遺跡調査区をとり、冬野遺跡の展開する丘陵の先端部から進入することとなった。また、仮設建物も資材の搬入路が確保できず、とりえず免田一本松の仮設建物から通う形で調査を進めることとなった。仮設建物設置場所は押水バイパス東側の調査区の取り扱い決定後、決めることになった。

遺跡は削平を受け、B区北端を除き、耕作土を除去すると赤土のベース面となるが、雨が降ると耕作土とベース面の境から水が染み出し調査区が水浸しとなった。この水の染み出しは一度雨が降ると3日ぐらい続き、手戻りの多い調査を実施することとなった。このような状況から遺構検出に時間を要し、やっと10月中旬にA区の遺構掘削に取りかかっている。遺構は落し穴と溝を確認している。どちらも深さがあり、排水しなごらの遺構掘削はつらいものがあつた。

10月後半からはB区の調査に取りかかっている。南側は南端の土坑を除けば深い遺構は少なかった

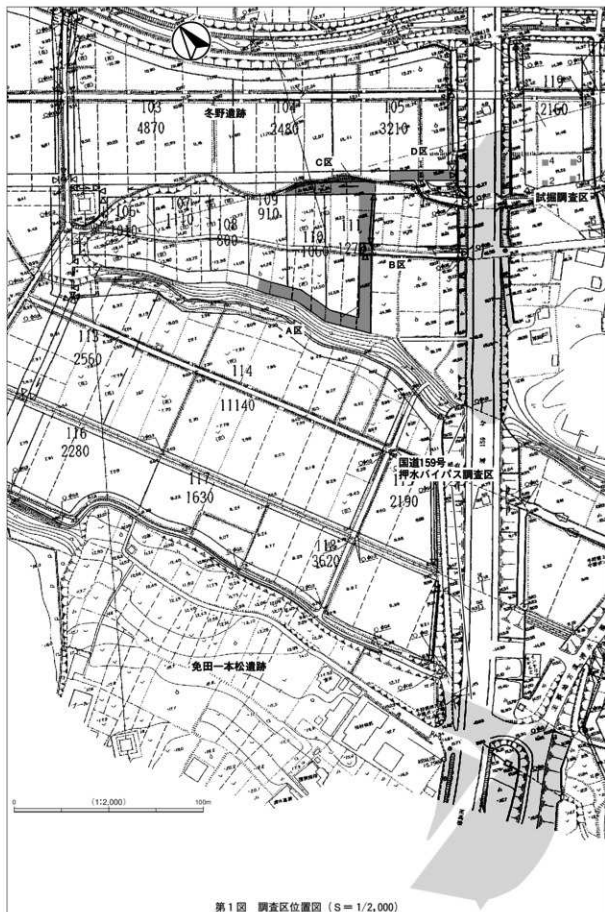
が、北側は、弥生時代の大形土坑や竪穴住居跡を確認している。水の染み出しは相変わらずである。

10月終わりに押水バイパス東側のパイプラインは既存水路を利用して埋設することが決定した。また、設計変更となったバイパス東側に隣接する地区については、盛土して保存を図ることとなった。その資料を得るため試掘調査を実施することとなり、30日に実施している。仮設建物は設置場所が確保できず、テントを設置しこれを当てることとなった。

B区では竪穴住居跡を3棟確認した。うち2棟は削平が著しく、壁溝や、柱穴を確認するにとどまったが、調査区北端で確認したSI01跡は傾斜面に構築されていたため、削平を免れ上部の遺存状態はよかった。上面からは古墳時代後期の土器片が出土したが、床面付近からは弥生時代後期の土器が出土している。

11月中旬からはC区の調査を開始している。C区では柱穴等を確認したものの大形の遺構は確認できなかった。SI01跡は貼り床がなされており、サブレンチを設け確認したところ、床面下に壁溝を確認し、上面を実測した後貼り床を除去し、下面の遺構の検出を行っている。壁溝は2本確認し2回以上の建て替えが行われていることが判明した。11月終わりまでB、C区の遺構掘削を行った。

12月に入りD区の調査を開始した。隣接した既存の水路から水が調査区に流れ込むためその対策をまず行い、調査に取りかかっている。押水バイパスに近い部分では小穴等の遺構を確認したものの下手半分が低地部にかかり遺構は確認できなかった。12月中旬までには遺構掘削をほぼ終了したが、この頃から雪が降り出し、実測作業や写真撮影に支障をきたすようになった。12月13日には実測作業を終了し、17日に機材を撤収、24日に現地を引き渡し調査を終了した。遺物整理は平成15年度に実施し、平成16年度に報告書の作成、刊行を行った。



第1図 調査区位置図 (S=1/2,000)

## 第2章 遺跡の位置と周辺の遺跡

### 第1節 遺跡の位置

冬野遺跡、免田一本松遺跡は、石川県羽咋郡宝達志水町冬野地内に位置する。宝達志水町は平成17年3月1日に押水町、志雄町が合併し誕生した。

宝達志水町は南北に長い石川県の中央やや北に位置し、古くは能登国の南端に位置していた。遺跡はこの宝達志水町の南西部、旧押水町冬野地内に広がっている。

旧押水町は総面積53.42平方キロメートル、東西約10km、南北約7km、東は富山県福岡町、南は旧高松町（現在かほく市）、北は旧志雄町と接している。

町域の東には、石動山系とともに能登半島の背骨となり、富山県との境を成す宝達山系がある。山地はそこから西に向い高度を下げつつ丘陵地へと続く。宝達山系からは、南から大海川、前田川、大坪川、杓田川、宝達川、相見川などの河川が流れ出し小扇状地が形成され、これが開析され丘陵地の前面部を形成している。丘陵地と日本海の間には3列の砂丘と、その後背地である低地部が間を埋めている。遺跡の立地する地点は、丘陵地が尾根状に低地部に飛び出した部分で、小さな谷を挟んで相対している。両者とも尾根の南西側は崖となり、遺跡の展開する丘陵上面は北東に緩やかな傾斜を持つ。

町域は山林が最も多く、宝達山山頂付近のブナ林は低山帯のブナ林として広く知られ、山麓斜面は古くは藪島として利用されていたという。現在では丘陵地との境付近に、世界初のクローン牛が誕生したことで有名な石川県畜産総合センターや県農業短大付属経営農場が開かれている。ついで面積を占める水田は、近年、区画の大型化、用排水の整備を主眼とした整備が進められている。今回の調査もそれに伴うものである。他には花木の栽培が盛んで、また、イチジクやそれを加工したジャム、ワイン、紋平柿、変わったところでは葛粉が宝達葛として特産品となっている。

集落は、砂丘地の背後、丘陵上、山裾に分布しており、低地部中央には古くからの集落は少ない。人口は、平成12年の資料によれば8,543人で減少傾向にある。調査を実施したおりに、最近空き家が増えて、と言うような話を作業員の方からうかがっている。

主要交通路は砂丘の頂部に能登有料道路、砂丘背後に旧国道とJRが走り、山麓には国道471号が山裾の集落を結んでいる。この間には国道159号押水バイパスが町域を貫いている。

遺跡は、昭和61年に前述の国道159号押水バイパス建設に伴い発掘調査が実施され、冬野遺跡では弥生時代～古代の集落跡が、免田一本松遺跡では弥生～古墳時代の集落跡、冬野小塚古墳群中の古墳3基が調査されている。今回の調査地点は、両遺跡ともバイパスの海側で、冬野遺跡については一部バイパスの山側の試掘調査も行っている。



## 第2節 周辺の遺跡

周辺には、県内で初めて縄文時代以前の遺跡が確認された御館遺跡があり、また、宿向山遺跡、宿東山遺跡、竹生野遺跡など同時代の遺跡の発掘調査事例もある。後者はいずれも国道159号押水バイパスの発掘調査で確認され、隣り合う丘陵部に遺跡が形成され、どの遺跡も台形様石器をその石器組成に含んでいる。免田一本松遺跡では同じバイパスの調査で石刃が出土している。

縄文時代は、その前半期の様相が明確でない。他の時代の遺物とともに数点の土器が出土する、あるいは落し穴が確認され、その周辺からわずかな土器が出土する事例が確認されるのみである。

中期からは集落跡などの調査事例がある。東間坂手山遺跡では中期初頭新保式期の竪穴住居跡が確認されている。免田一本松跡では、中期前葉の土器がまとめて出土している。後半～後期初頭では、紺屋町ほんでん遺跡がある。粘土貼の遺構が確認されているが、竪穴住居跡の貼床の可能性があろう。

後期では上田うまばら遺跡があり、県内では事例の少ない中葉の好資料が出土している。後期～晩期では紺屋町ダイラクボウ遺跡があり、丘陵裾部で貯蔵穴がまとめて検出されている。晩期では、前述の紺屋町ダイラクボウ遺跡以外には調査事例がないもの、東間たけのこし遺跡が知られている。

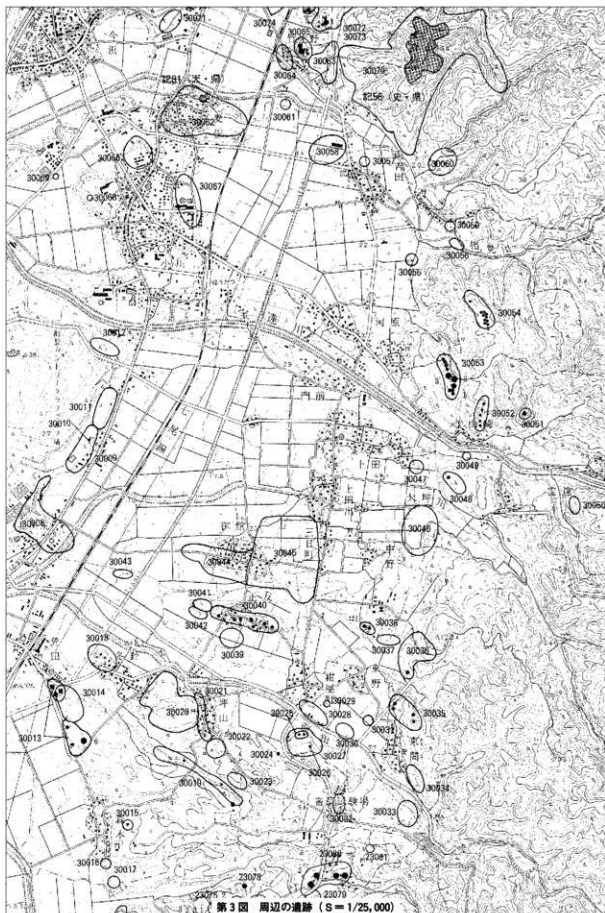
弥生時代は後期まで明瞭な遺構が確認された調査事例はない。北川尻おさの山遺跡、竹生野トリゲ山遺跡で土器片が採集されている。

後期後半～古墳時代は調査事例も多い。前述の宿向山遺跡、宿東山遺跡、竹生野遺跡では、丘陵尾根上に集落が形成されている。同じような丘陵上に立地しながら微妙に内容が異なる。冬野遺跡では弥生～古墳時代の竪穴住居跡、掘立柱建物と弥生時代の大型土坑が確認されている。免田一本松遺跡では、弥生～古墳時代の竪穴住居跡、掘立柱建物が確認されるもの、大型土坑は確認されていない。この両者も谷を隔てて隣接しておりその関係を問われるところだが、冬野遺跡の今回の調査で古墳時代後期と思われる竪穴住居跡が確認され、遺構の上からも同時並存が確認された。他には南吉田葛山遺跡などが調査されている。

古墳は国道159号押水バイパスに伴う調査で冬野小塚古墳群の内3基が調査されている。1号墳は半壊状態であったが、墳丘裾で1辺20m程の方墳と確認された。宿東山遺跡では全長約21mの前方後円墳である宿東山1号墳と径13mの円墳である2号墳が調査されている。1号墳からは後漢鏡が出土している。他には、竹生野天皇山古墳が知られているが、古墳は、山麓裾部や低地部に張り出す丘陵頂部に構築されるようである。砂丘地では、古墳の確認例はないが、大海川河口から埴輪が採集されている。

古代では、冬野遺跡や紺屋町七十葺遺跡で掘立柱建物群が検出されている他は、竪穴住居跡を主体とするようである。北川尻ほしば山遺跡では27棟の竪穴住居跡が確認され、宿向山遺跡、宿東山遺跡でも竪穴住居跡が確認されている。時代的には掘立柱建物群が後出傾向にある。また、7世紀からは押水・高松古窯跡群が操業を開始している。古窯跡群は南群と北群に分けられるが北群から操業を開始し、8世紀後半あたりから南群に転換していくようである。近辺では正友ヤチヤマ窯跡が調査され、8世紀の階段状床面を持つ窯跡が確認されている。

中世では近年、古くから有名な御館館跡が調査され、巨大な堀や縄張りなどが明らかとなっている。また、前述の紺屋町七十葺遺跡でも中世の集落跡が確認されている。末森城跡は佐々成正と前田利家の武将奥村永福らが戦ったいわゆる末森合戦の舞台となった地で、NHKの大河ドラマに登場し広く知られるようになった。



遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	遺跡番号	名称	所在地	種別	時代
23075	八野ウツバ遺跡	かほく市八野	散布地	縄文	30043	坪山かわら遺跡	宝達志水町坪山	散布地	縄文
23078	八野アサカシ遺跡	かほく市八野	築跡	奈良・平安	30044	御船遺跡	宝達志水町御船	散布地	旧石器～中世
23079	野寺A遺跡	かほく市野寺	散布地	縄文	30045	御船遺跡	宝達志水町御船	築跡	中世
23080	野寺1号築跡	かほく市野寺	築跡	古墳	30046	上田うまぼち遺跡	宝達志水町上田	集落跡	縄文
	野寺2号築跡	かほく市野寺	築跡	古墳	30047	上田地区方遺跡	宝達志水町上田	散布地	縄文
	野寺3号築跡	かほく市野寺	築跡	不詳	30048	上田孤塚古墳	宝達志水町上田	古墳	古墳
	野寺4号築跡	かほく市野寺	築跡	不詳	30049	上田水郷遺跡	宝達志水町上田	散布地	不詳
23081	野寺尾塚	かほく市野寺	祠塚	不詳	30050	宝達中野遺跡	宝達志水町宝達	築跡	縄文
30008	北川尻おろしの山遺跡	宝達志水町北川尻	散布地	弥生・古墳	30051	山崎中世墳墓	宝達志水町山崎	墳墓	中世
30009	上田出西山遺跡	宝達志水町上田出	散布地	弥生～平安	30052	山崎横穴	宝達志水町山崎	横穴墓	古墳
30010	米出ダマヤ中世墓	宝達志水町米出	墳墓	中世	30053	河原三つ子塚1号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
30011	堂田遺跡	宝達志水町堂田	散布地	奈良～平安		河原三つ子塚2号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
30012	小川A遺跡	宝達志水町小川	散布地	不詳		河原三つ子塚3号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
30013	冬野小塚1号墳	宝達志水町冬野	古墳	古墳		河原三つ子塚4号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
	冬野小塚2号墳	宝達志水町冬野	古墳	古墳		河原三つ子塚5号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
	冬野小塚3号墳	宝達志水町冬野	古墳	古墳		河原三つ子塚6号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
	冬野小塚4号墳	宝達志水町冬野	古墳	古墳		河原三つ子塚7号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
	冬野小塚5号墳	宝達志水町冬野	古墳	古墳		河原三つ子塚8号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
	冬野大塚古墳	宝達志水町冬野	古墳	古墳		河原三つ子塚9号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
30014	免田一本松遺跡	宝達志水町免田	集落跡	旧石器～古墳		河原三つ子塚10号墳	宝達志水町河原	古墳	古墳
30015	森本ドツバ遺跡	宝達志水町森本	中世墳	中世	30054	南吉田岡山中世墳墓	宝達志水町南吉田	墳墓	中世
30016	森本B遺跡	宝達志水町森本	散布地	奈良・平安	30055	南吉田堂の榎遺跡	宝達志水町南吉田	散布地	古墳
30017	森本A遺跡	宝達志水町森本	散布地	奈良・平安	30056	南吉田堂の庭遺跡	宝達志水町南吉田	散布地	古墳
30018	冬野遺跡	宝達志水町冬野	散布地	縄文～平安	30057	南吉田穴田遺跡	宝達志水町南吉田	散布地	不詳
30019	冬野オクボ1号築跡	宝達志水町冬野	築跡	奈良	30058	南吉田倉田遺跡	宝達志水町南吉田	散布地	古墳～中世
30020	坪山山岩跡	宝達志水町坪山	磐跡	中世	30059	南吉田古原歌遺跡	宝達志水町南吉田	散布地	不詳
30021	坪山横穴葬	宝達志水町坪山	横穴墓	古墳	30060	南吉田サンビ遺跡	宝達志水町南吉田	散布地	平安～中世
30022	坪山みやの田遺跡	宝達志水町坪山	散布地	不詳	30061	美生かわら遺跡	宝達志水町美生	散布地	不詳
30023	坪山あさひ小築跡	宝達志水町坪山	築跡	奈良	30062	美生遺跡	宝達志水町美生	散布地	不詳
30024	棚屋河むらひの築跡	宝達志水町棚屋町	古墳	古墳	30063	竹生野遺跡	宝達志水町竹生野	集落跡	旧石器～中世
30025	棚屋町天神山横穴葬	宝達志水町棚屋町	横穴墓	古墳	30064	竹生野フルヤシキ遺跡	宝達志水町竹生野	散布地	古墳～中世
30026	棚屋町飯塚古墳	宝達志水町棚屋町	古墳	古墳	30065	竹生野天泉山1号墳	宝達志水町竹生野	古墳	古墳
30027	棚屋町ダイクボウ遺跡	宝達志水町棚屋町	寺院跡	縄文～平安～中世		竹生野天泉山2号墳	宝達志水町竹生野	古墳	古墳
30028	棚屋町はらでん遺跡	宝達志水町棚屋町	散布地	縄文・古墳～中世		竹生野天泉山3号墳	宝達志水町竹生野	古墳	古墳
30029	河原館跡	宝達志水町河原町	館跡	不詳	30066	合浜新保山遺跡	宝達志水町合浜	散布地	縄文・奈良
30030	東園たけのこし遺跡	宝達志水町東園	散布地	縄文	30067	合浜葛田山遺跡	宝達志水町合浜	散布地	奈良～平安
30031	東園はりがら遺跡	宝達志水町東園	散布地	縄文	30068	合浜A遺跡	宝達志水町合浜	散布地	不詳
30032	東園ひらき遺跡	宝達志水町東園	散布地	縄文	30069	合浜B遺跡	宝達志水町合浜	散布地	不詳
30033	東園さかて山遺跡	宝達志水町東園	集落跡	縄文	30070	末森横路	宝達志水町新・美生・南吉田	横路	中世
30034	東園ヨウシュ遺跡	宝達志水町東園	古墳	奈良～中世	30071	美生A遺跡	宝達志水町美生	散布地	不詳
30035	東園宝殿山1号墳	宝達志水町東園	古墳	古墳	30072	宿東山1号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
	東園宝殿山2号墳	宝達志水町東園	古墳	古墳		宿東山2号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
	東園宝殿山3号墳	宝達志水町東園	古墳	古墳		宿東山3号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
	東園宝殿山4号墳	宝達志水町東園	古墳	古墳		宿東山4号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
30036	正友ヤチヤマ遺跡	宝達志水町東野	築跡	奈良		宿東山5号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
30037	東野B遺跡	宝達志水町東野	散布地	不詳		宿東山6号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
30038	御船ヘライバシ遺跡	宝達志水町御船	築跡	奈良～平安		宿東山7号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
30039	正友じんくとくま遺跡	宝達志水町正友	散布地	縄文・古墳		宿東山8号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
30040	正友1号墳	宝達志水町正友	古墳	古墳		宿東山9号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
	正友2号墳	宝達志水町正友	古墳	古墳		宿東山10号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
	正友3号墳	宝達志水町正友	古墳	古墳		宿東山11号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
	正友4号墳	宝達志水町正友	古墳	古墳		宿東山12号墳	宝達志水町宿	古墳	古墳
	正友5号墳	宝達志水町正友	古墳	古墳	30073	宿東山遺跡	宝達志水町宿	集落跡	旧石器～奈良
	正友6号墳	宝達志水町正友	古墳	古墳	30074	宿トリゲヤマ遺跡	宝達志水町宿	散布地	弥生～中世
30041	正友大塚跡台地遺跡	宝達志水町正友	散布地	縄文					
30042	正友はちじり遺跡	宝達志水町正友	散布地	縄文					

第1表 遺跡地名表

## 第3章 冬野遺跡

### 第1節 概 要

冬野遺跡は台地上の調査区（A、B、C区）と台地下の低地部の調査区（D区）に分かれる。A～B区は台地上にコの字に配置され、台地南側縁に位置し張り出しに平行する部分をA区、台地を横断する部分をB区、台地北側縁に位置し張り出しに平行する部分をC区とした。D区はC区北側の低地部に位置し、調査区東端は押水バイパス法面縁となる。バイパスに近い箇所は丘陵緩斜面であるがバイパスから遠い箇所は前田川の氾濫原と思われる低地部と連続している。

台地上では縄文時代の落し穴、弥生～古墳時代の堅穴住居跡、古代の溝等を確認しているが、B・C区の北端を除いては削平を受けており耕作土直下がベース面となる。台地下では丘陵斜面部で小穴が確認されたが、低地部は削平された丘陵裾部と氾濫原となり遺構は確認されていない。現況では台地と低地部は比高があるが、本来は東に向かって傾斜している台地が、そのまま低地部へと連続していたと考えられる。

### 第2節 遺構と遺物

#### 1. A 区

##### SD01（第5図）

A区中央付近に位置する。調査区を斜めに横切り、ゆるい弧状を呈している。幅約120cm、深さ約40cmで、上面を削平されている。覆土は灰色系の土壌が堆積している。須恵器、土師器の小片が出土したほか、第7図18の台石が溝底からやや浮いた状態で出土している。また、上面の耕作土から、第7図10～16の須恵器が出土している。時期は古代と思われる。この他、幅20cmほどの溝が何条か確認されているが、すべて新しい畑の区画溝である。

##### SK01（第4図）

A区東側に位置する。長径約80cm、短径約50cmのやや角ばった楕円形を呈する。深さは約60cmで、坑底はほぼ平ら、中央に径約10cm、深さ約40cmの小穴が穿たれている。覆土は坑底付近に黄褐色土系の土壌が薄く堆積し、その上部には茶褐色系の土壌が堆積している。小穴の覆土は土坑の中位付近から堆積している。縄文時代の落し穴と考えられる。

##### SK02（第6図）

A区西側に位置する。径約80cmの円形を呈し、深さは約30cm、坑底は平らである。上面が削平されていると思われ、本来の深さではないと考えられる。また、部分的に後世の攪乱を受けている。覆土は上部にベースの土壌に類似した土壌が堆積している。後述するB区SK08に類似する。時期は不明である。

##### SK03（第6図）

A区西側に位置する。半分程度が調査区外に延びる。幅約60cmで長方形を呈するものと思われる。深さは約60cmで坑底は平らである。これも上面が削平されていると考えられる。覆土は上部に茶褐色土系の土壌が堆積するが、中位以下はベースの土壌に類似した土壌が堆積している。SK01に類似し縄文時代の落し穴と考えられる。



**SK04 (第6図)**

A区西側 SX01と重なって位置する。長径約140cm、短径約60cmの長楕円形を呈する。深さは90cmで坑底は平らである。覆度は上下に茶褐色系の土壌が堆積しているが、中位に堆積する土壌は灰色系の土壌となり、この層の下端から礫が出土している。SK01、03と同様縄文時代の落し穴と考えているが、前2者とは若干趣が異なる。

**SK09 (第6図)**

A区中央で確認された。調査区外に延びる。細の区画溝等と切りあっているため規模、形状は良くわからないが、長径80cm、幅70cmほどの楕円形と想定している。深さは非常に深く検出面から200cm以上である。完掘はしていない。

**SX01～03 (第5、6図)**

不整形な落ち込みをSXとした。SX01は調査区西側端に位置する。検出時に焼土、炭化物の広がりとして確認した。堅穴住居跡と想定されたが、掘り下げにかかるのと浅く、坑底も一定しない。上面が削平され、後世の耕作が坑底にまでおよんでおり判然としなない。後世の耕作にかかわる可能性を否定できない。しかし、南西隅で底に焼土面を伴うP01が確認され、第7図3～6の古墳時代と思われる土器が出土している。また、他にも2箇所焼土面が確認されている。形態は1辺4mほどの方形となる可能性があるものの、壁の立ち上がり等は明瞭ではなく堅穴住居跡とするには疑問が残る。

SX02はSK01の東側に隣接する。深さ30～60cmとしっかりしており、いくつかの土坑の切りあいとも思われるが、覆土にしまりがなく明瞭な遺構とは判断できなかった。SX03はA区中央で確認され、当初は土坑と考えていたが、覆土にしまりがなく明瞭な遺構とは判断できなかった。

この他、多数の小穴等が確認されたものの多くは木の根、耕作にかかわる攪乱である。遺物はほとんどが耕作土中から出土したもので、土器は細片化している。17は石錘、19は鉄鏃、20は鏝と思われる。

**2. B 区****SI01 (第11図)**

調査区北端で検出した。北側半分は開田で失われ、残りの3分の2は調査区外に広がる。緩斜面に位置し、開田の際、盛土された部分に当たるため上部の残りは良かった。

平面形は円、または多角形を呈すると思われる、大形住居と考えられる。深さは最深部で約80cmである。覆土は茶褐色土系の土壌であるが、上部には黄褐色土ブロックの混入する層が認められ、住居中央ではその直下の層がそのまま床面を覆っている。壁際では焼土ブロックや炭化部材を含む層が堆積し、炭化部材は壁から内側に向かって倒れたような状態で出土している。太い部材はなるべく取り上げられなかった。その下位は黄灰色粘質土で床面が構築されているが、中央付近ははがれてしまった部分も認められる。この床面では壁溝を1条確認している。壁溝の上面からは第12図32の台付鉢、35の台石が出土した。

柱穴は北側端付近で2基確認した。1基は壁溝から160cm離れ、径約25cm、深さ約45cm、もう1基は壁から190cm離れ、径約50cmのやや角ばった円形を呈し、深さは約50cmで北側にテラスが1段確認できる。

床面を除去すると下位の床面が確認でき、サブトレンチではさらにその下が掘り込まれている。下位の床面では壁溝を3条確認した。うち1条は、調査区東壁に添うような形で確認され、方形の形態をとる時期があったことをうかがわせる。他の2条は上位の壁溝から分岐するような形で延び、内側

の1条は途中で浅くなり検出できなくなる。柱穴は上位の柱穴の南側で、3基が重なったような状態で確認できた。深さは上位の柱穴よりわずかに浅い。

これらのことからこの竪穴住居は検出された南西壁際付近を基点として3回以上の建て替えが行われ、放棄された時点以降に火を受けたことが想定できる。時期は壁溝上面から出土した土器から弥生時代後期後半と考えられる。覆土下層からは第12図33、34の研磨面を持つ軽石が出土している。また、上面、上部からは第12図36、37のような7世紀代の須恵器も出土している。

#### SI02 (第10図)

調査区北側、SI10から10mほど南側で検出された。ちょうど水田の段差となる部分で検出され、壁溝と床面の一部のみ確認している。耕作にかかわる溝等と重なっており判然としにくい。壁溝は幅20cmで壁の立ち上がりは10cm弱残っている。床面は壁溝から北に1mほど残っているが、後世の溝等により攪乱されている。Pa、Pbが深さ40～50cmあり柱穴の可能性を持つが、壁溝の方向とはずれておりこの竪穴住居のものかどうかはわからない。床面と思われる部分から第12図42の土器が出土している。

#### SI03 (第8図)

調査区南側で焼土面が確認され、その南に位置するPe、Pdがしっかりとした柱穴であることから竪穴住居跡と考えた。壁の立ち上がりは存在しない。焼土面は長径100cm、短径70cmほどの楕円形を呈する。Pe、Pdは径約25cm、深さ約65cmで2.3mほど離れている。焼土面を竈とすれば1辺5m前後の竪穴住居跡が想定できる。焼土の西に隣接してSK05とした径約90cm、深さ20cm弱の土坑があり、第13図43～50が出土している。これがこの竪穴住居跡にかかわるものであるならば6世紀段階の竪穴住居跡といえるが、県内では竈を持つ竪穴住居が6世紀にまでさかのぼる確実な事例が少なく遺構の状態も悪いことから、現状では判断を保留しておく。この他Pe、Pfが建物の柱穴の可能性を持つ。

#### SK06 (第10図)

調査区南側、SI02から6mほど南側で確認された。半分は調査区外に広がる。径約180cmの円形を呈し、深さ約120cm、壁際に幅20cmほどの壁溝がめぐらされている。覆土は壁溝から壁に沿って立ち上がる灰褐色土壌があり、何らかの有機物による構築物の存在をうかがわせている。坑底に多量の礫を含む層があり、壁際には暗灰茶色の土壌が堆積している。中位に暗灰褐色の土壌をはさみ上下に灰褐色の土壌が堆積している。覆土から第13図51～53の土器が出土し、弥生時代後期後半ごろのものと思われる。

#### SK07・08・10 (第8図)

SK07、08は調査区南端で確認した。SK07は長径約100cm、短径約70cmの楕円形を呈し、深さは約120cm、坑底からゆるく開いて立ち上がる形状を呈する。SK08は一部が調査区外となるが、長径120cm、短径50cmほどの楕円形を呈すると想定される。深さは約110cmで、07と同様な形態をとる。SK10は調査区中央付近で確認し、径約70cmの略円形を呈する。深さは約80cmで、07、08と同様な形態をとる。覆土はいずれも上位と最下位に茶系の土壌が堆積するほかは黄灰色系の土壌となり、ベースの土壌との判別が難しい。遺物が出土せず時期は不明である。

これら以外にも溝、土坑、小穴が確認されているものの遺構と判断できなかった。

### 3. C 区 (第14～15、18図)

C区はB区北端と同様、台地北側の緩斜面にあたり、縁は盛土でおおわれており削平を免れた部分が多かった。にもかかわらず検出された遺構は小穴と、不整形な土坑状の落ち込みのみである。遺物の出土量も少なく、遺跡の縁辺に当たるのかもしれない。第18図56、57は弥生時代後期後半と思われる。

57はP21とした土坑状の落ち込みから出土した。58～64は9世紀初め頃のものと考えられる。67は横瓶で浅い小穴P15上面から出土し、59はその口縁部と思われ隣接する浅い小穴P14から出土している。62～64は同一固体で製塩土器である。65は鉄器で先端部に刃部を持つ。

#### 4. D区・試掘調査区（第16～18図）

D区は水田2枚にわたっている。東側は丘陵の緩斜面でベース面は丘陵堆積物となるが、東端はすでに削平されていた。西に行くにつれ盛土に覆われ遺存状態は良くなるのだが、検出された遺構は、小穴と不整形な落ち込みのみである。西側も東端が開田で削平されており、中ほどからは鞍部へと移行する。遺構は確認されなかった。遺物は第18図66の須恵器杯、68の珠洲焼播鉢のほか土師器小片がわずかに出土したのみである。

試掘調査区はD区の押水バイパスを挟んで東側に隣接する水田である。4箇所の試掘坑を設け、遺構、遺物の有無を確認した。NO.1～3では遺構が確認されたがNO.4では確認されなかった。遺物は土器小片のほか、第18図69、70の石錘が出土した。

#### 5. その他の遺物（第19図）

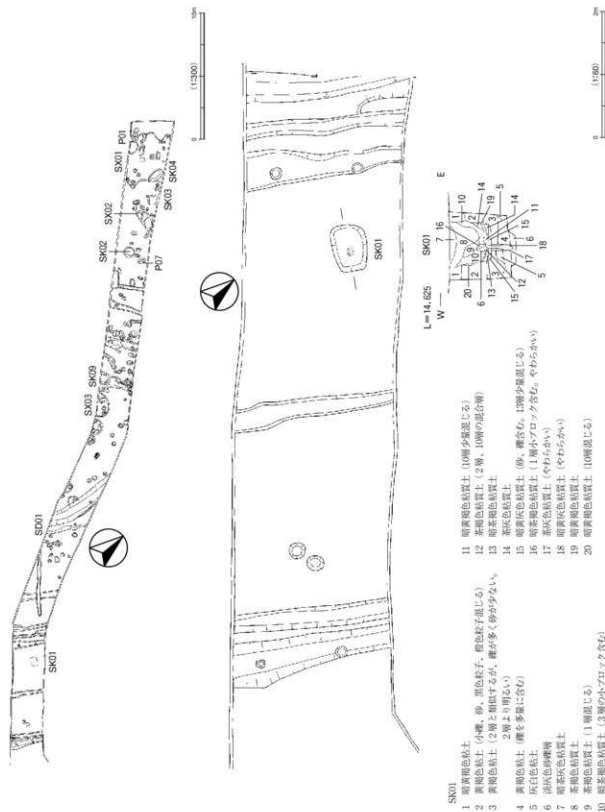
第19図71～73、76～80、82、83は冬野遺跡の位置する丘陵南裾部から採集されたものである。出土地点は丘陵の南裾でB区の延長よりわずかに南側である。この部分はゆるく丘陵がえぐれ裾部にはわずかな平坦面がある。丘陵から廃棄されたとも考えられるが、このわずかな平坦面が水場等の施設であった可能性も考えられる。74、81は丘陵先端部の裾で採集されたものである。冬野遺跡の立地する丘陵の西から南にかけての低地部は腐蝕物の堆積が厚いらしく、ほ場整備工事の重機が沈み込んでしまい難儀しているという話を聞いている。75は調査区の西側、丘陵上で採集されたものである。71～73は弥生時代後期後半、74～82は9世紀代のもと思われる。

### 第3節 小 結

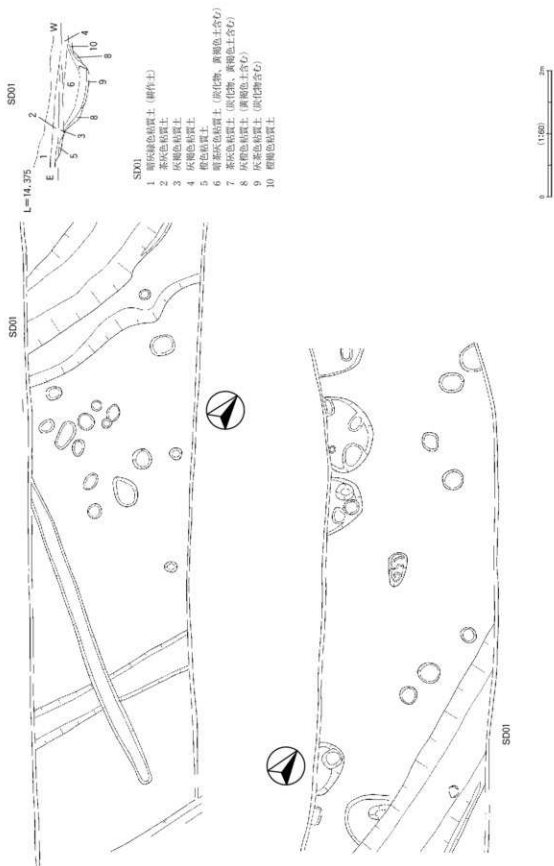
今回の冬野遺跡の調査は、昭和61年の押水バイパス調査区より西側の広がりをつまえることとなった。遺跡自体は削平が著しく、遺存状態はあまり良好とはいえない。

縄文時代では落し穴が確認され、前回調査地点と同様狩猟の場であったといえる。弥生時代では大型土坑が確認され、その分布範囲が広がった。竪穴住居跡は大型・円形のもの確認され、複数棟で構成される集落跡であった可能性を示唆している。

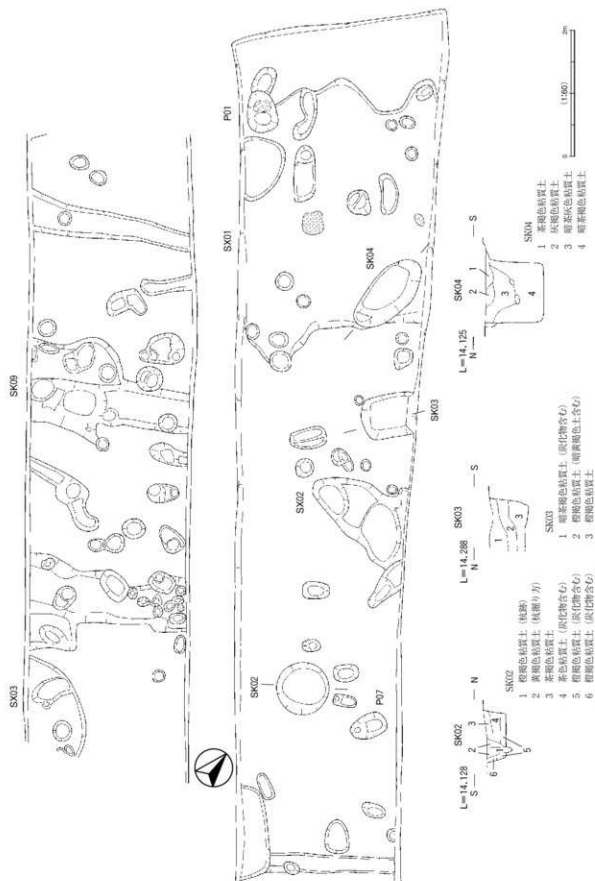
古墳時代では後期の竪穴住居跡と考えられる遺構が検出され、同時期の建物バリエーションが増えた。古代では溝状の遺構が確認されたが、これが前回調査で確認された建物群とどうかかわるのか興味深いところである。



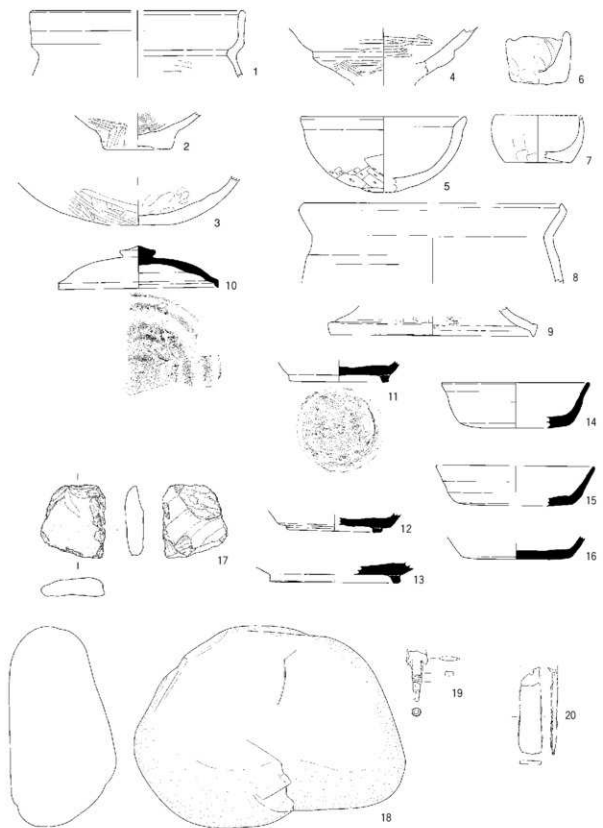
第4図 A区遺構実測図(1) (S=1/300・S=1/60)



第5图 A区遺構実測图(2) (s=1/60)

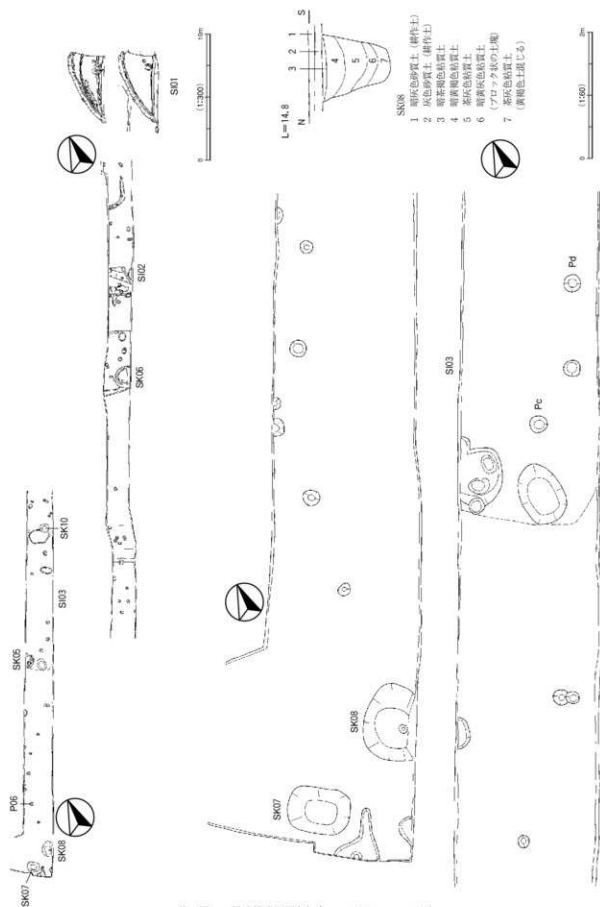


第6図 A区遺構実測図(3) (S=1/60)



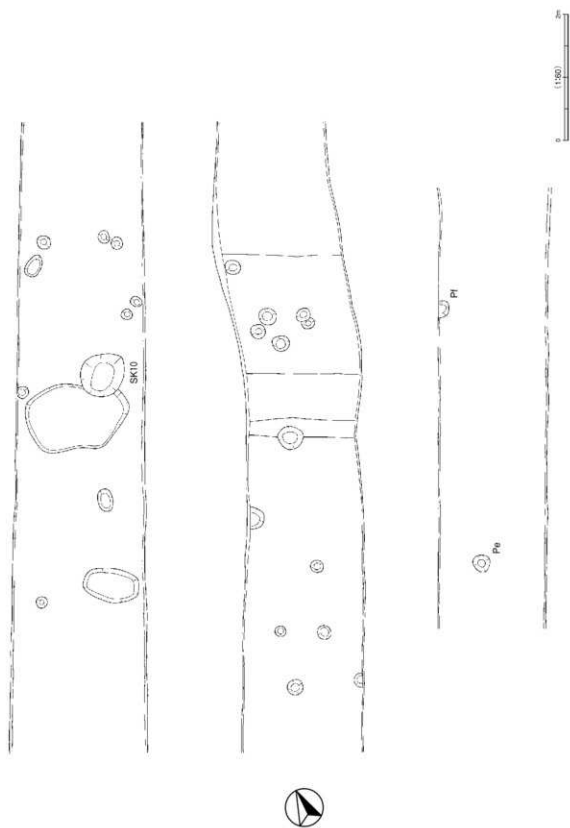
第7図 A区遺物実測図 (S=1/3)

0 (1:3) 10cm

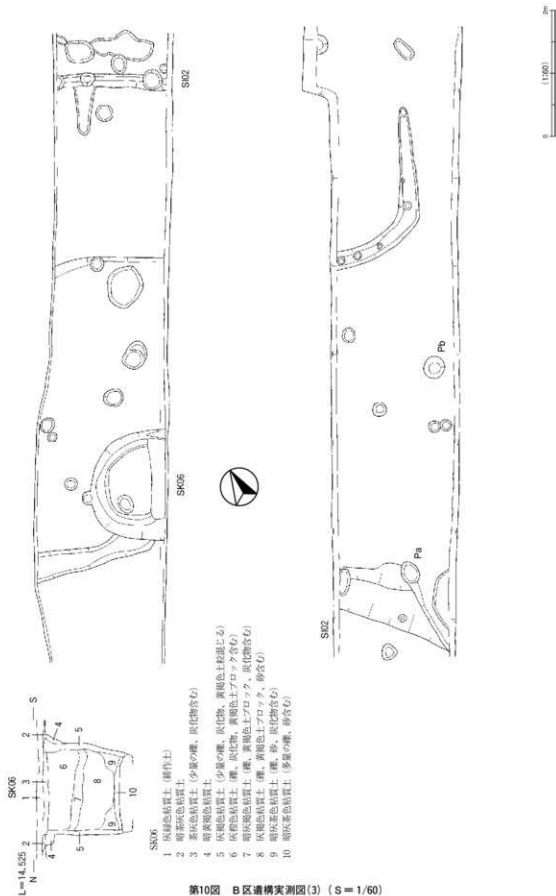


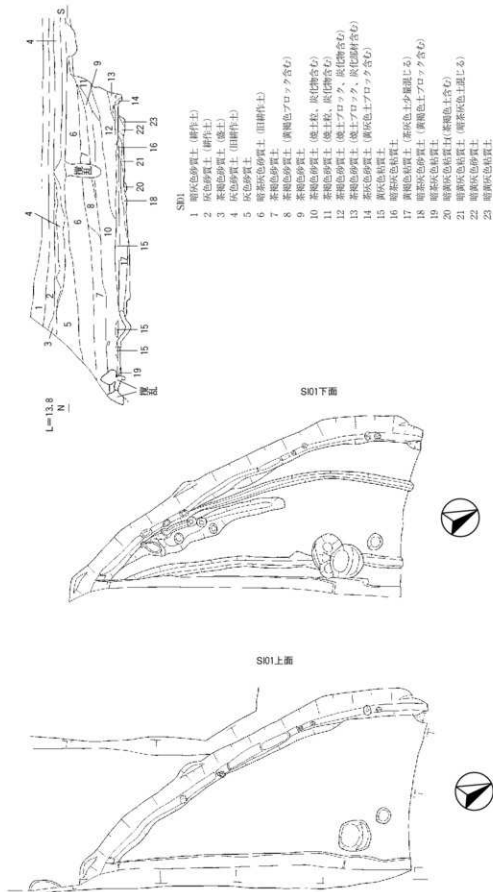
第6図 B区遺構実測図(1) (S=1/300・S=1/60)

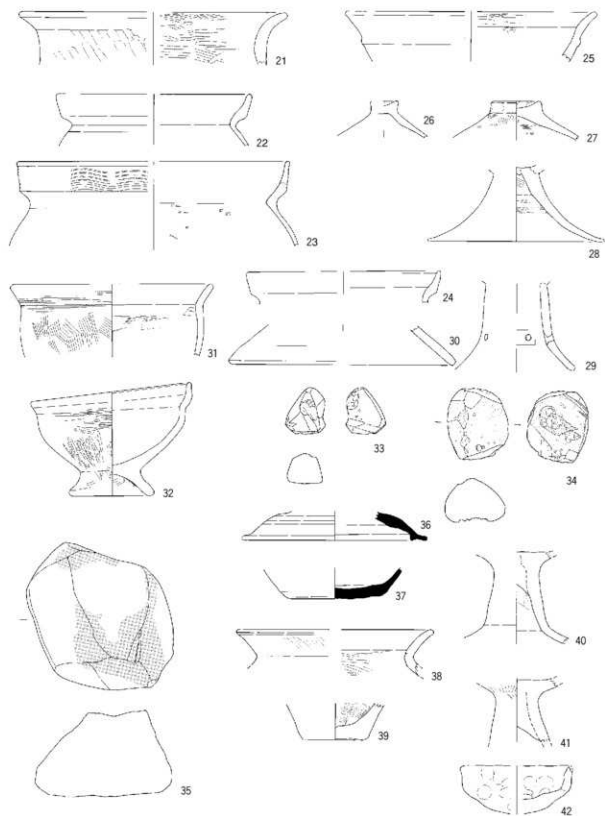




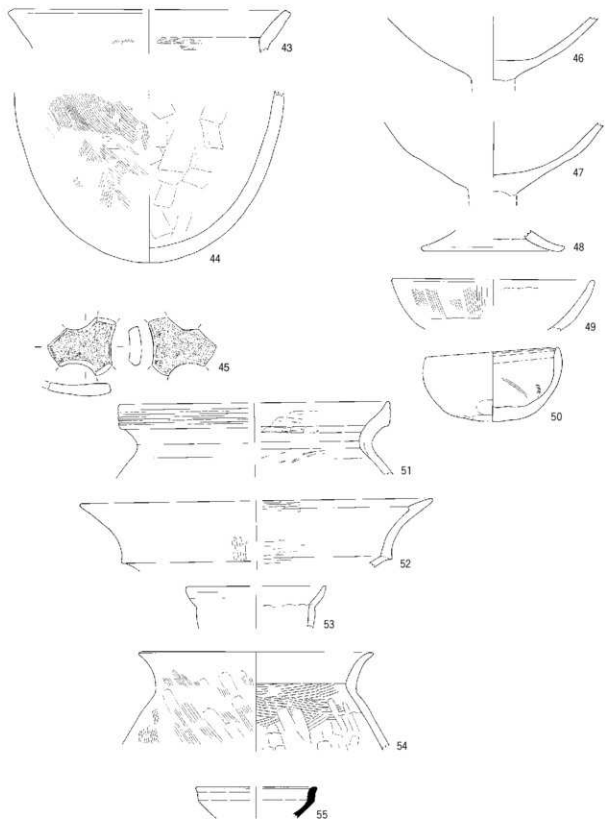
第9図 B区遺構実測図(2) (S=1/60)



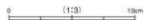


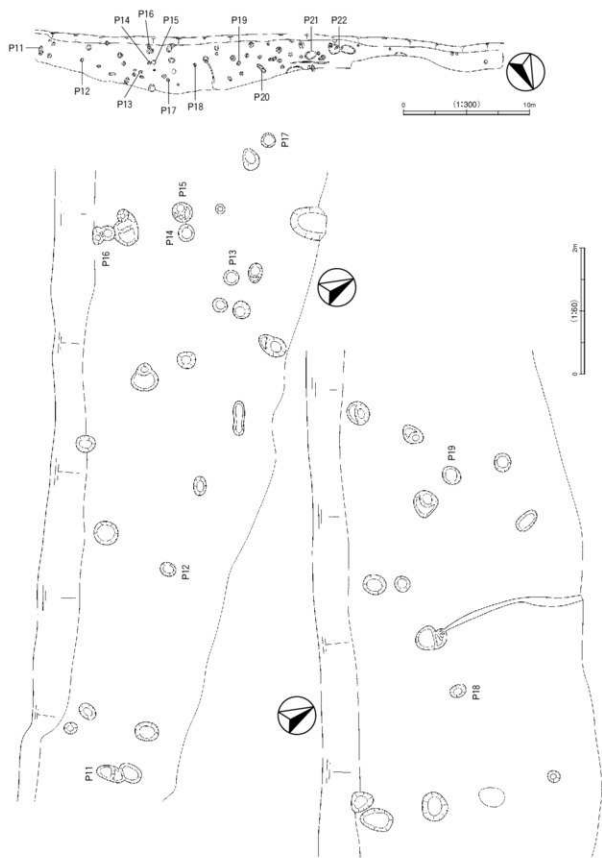


第12図 B区遺物実測図(1) (S = 1/3)

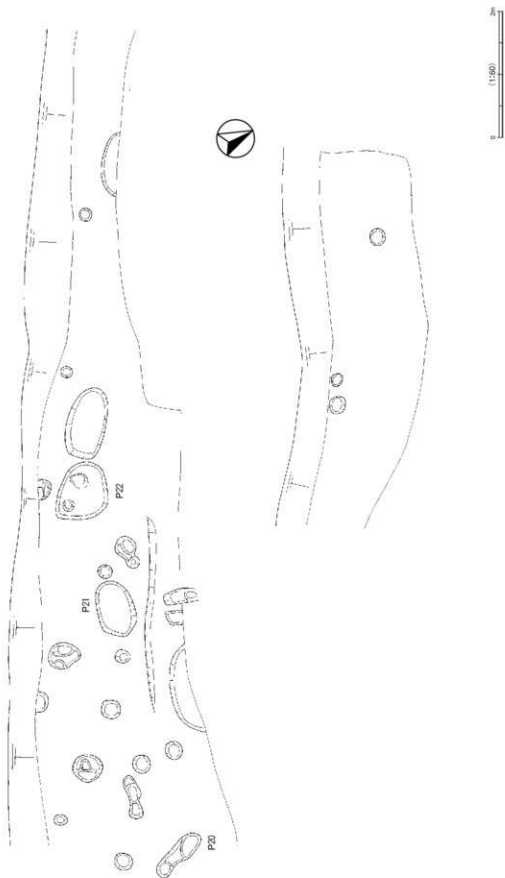


第13図 B区遺物実測図(2) (S=1/3)

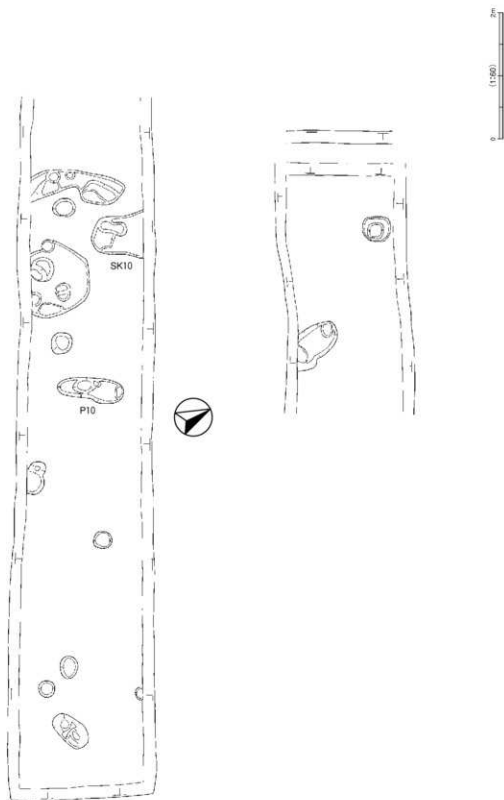




第14図 C区遺構実測図(1) (S=1/300・S=1/60)

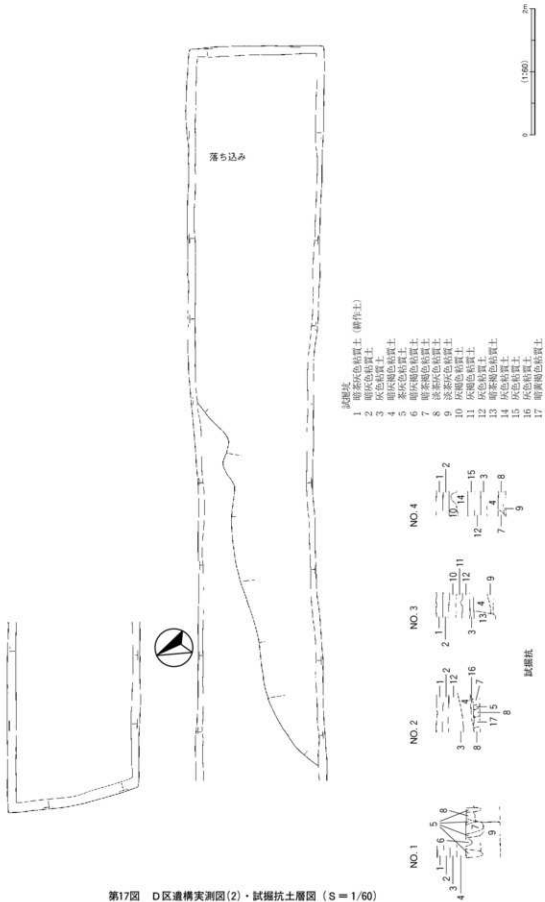


第15图 C区遺構実測图(2) (s=1/60)

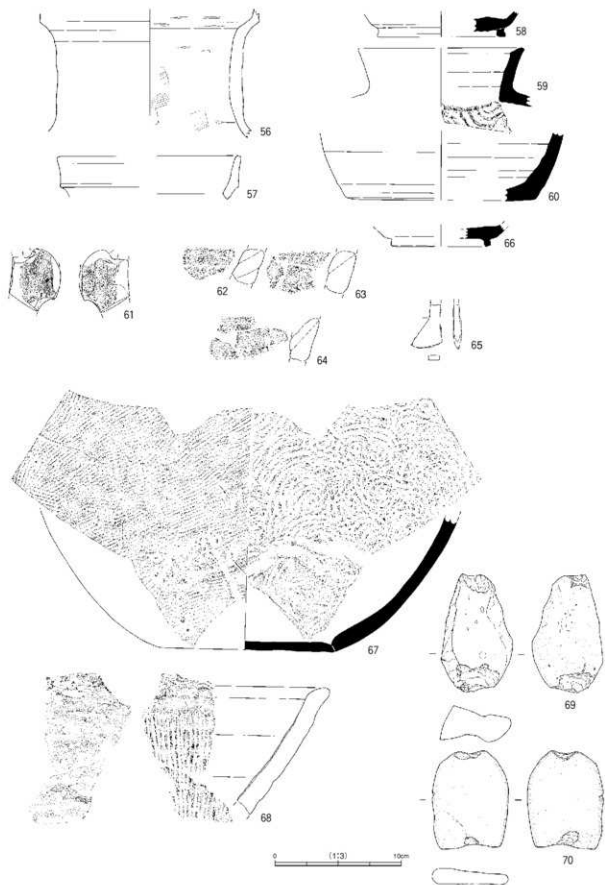


第16図 D区遺構実測図(1) (S=1/60)

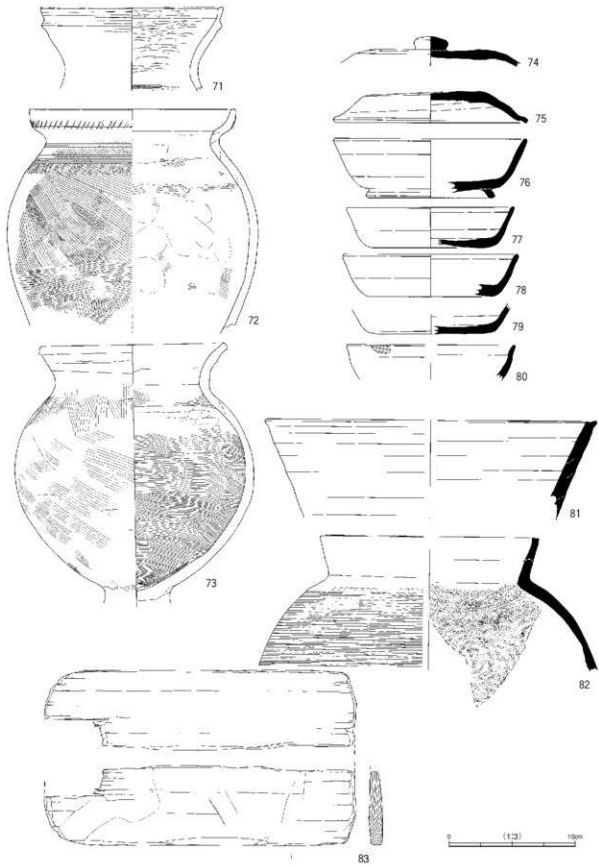




第17図 D区遺構実測図(2)・試掘抗土層図 (S=1/60)



第18図 C区・D区・試掘坑遺物実測図 (S=1/3)



第19図 冬野遺跡採集遺物実測図 (S=1/3)

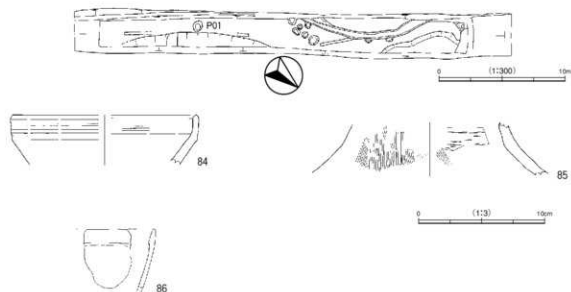
## 第4章 免田一本松遺跡

今回の調査地点は、押水バイパス調査区の西側に120mほど離れた地点で丘陵裾部に当たる。丘陵部は北に向う緩斜面で畑が営まれ、丘陵下の低地部は水田である。調査区はその境目となる。

調査区西側では削り残された丘陵縁が確認され、溝、小穴等が見つかったもののすべて後世の耕作にかかわるものである。東側では盛土を除去すると、低地部への移行部分が現れP01とした土坑状の落ち込みが確認できた。P01は径約90cm、深さ約50cmで茶褐色系の土壌が堆積している。遺物は出土しなかったが、覆土から遺構と考えられ、低地部に構築された貯蔵穴と考えている。

遺物は盛土中から細片化した土器が出土したにとどまる（第20図84、85）。また、付近で第20図86の鉄鍋片が採集されている。

今回の調査地点で検出されたP01は前回調査では、明確ではなかった貯蔵穴が低地に分布する可能性を示唆する資料と思われる。



第20図 免田一本松遺跡・遺構・遺物実測図（S = 1/300・S = 1/3）



調査 番号	実測番号	出土地点	器種	最大径	最大幅	厚さ	重量	調査 番号	実測番号	出土地点	器種	最大径	最大幅	厚さ	重量	
17	石-2	A SDO	石鐮	5.8	5.2	0.2	20	35	石-7	SBO 田圃土面	台石	11.7	11.40	6.9	1196	
18	石-4	A SDO	台石	21.3	16.1	6.3	4028	60	金属-2	C 瓦中央	瓦器	3.30	2.4	0.4	3	
19	金属-4	A 中央瓦	鉄鍔	(4.65)	(1.6)	0.7	4	69	石-1	試験坑3	石鐮	9.4	5.7	2.85	138	
20	金属-3	A 壁面中央	ノミ	6.8	1.9	0.35	12	70	石-2	試験坑3	石鐮	7.8	6.05	1.39	88	
33	石-6	B SBO 下層	野石	3.60	3.15	2.4	4	83	木-1	古塚内(南) 表層		28.9	6.4	1.0		
34	石-5	B SBO 下層	野石	5.7	4.8	3.5	14	86	金属-5	穴田-8号 SDO	鉄鍔				(3.8)	(0.5)

第3表 石器、金属器、木器計測表

## 引用・参考文献

- 岡野秀紀ほか 2002 『御館館跡』 押水町教育委員会
- 押水町史編纂委員会 1974 『押水町史』 押水町役場
- 押水町史編纂委員会 2001 『押水のあゆみ』 押水町役場
- 垣内光次郎ほか 1994 『紺屋町ダイラクボウ遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 川畑誠・安美樹 1994 『正友ヤチキヤ窟跡』 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 加藤三千雄 1987 「高松町・押水町入会東開坂手山遺跡出土土器の資料再紹介」『石川県考古学研究会会誌』第30号 石川考古学研究会
- 北野博司ほか 1987 『宿東山遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 船越井亮・村井一郎 1969 「石川県押水町紺屋町ホンデン遺跡調査報告」『石川県考古学研究会会誌』第12号 石川考古学研究会
- 船越井亮・村井一郎 1970 「押水町紺屋町ホンデン遺跡調査報告(第二次)」『石川県考古学研究会会誌』第13号 石川考古学研究会
- 谷幸信・西野秀和 1976 「羽咋郡押水町竹生野トリケ山遺跡」『石川県考古学研究会会誌』第19号 石川考古学研究会
- 西野秀和ほか 1991 『押水町冬野遺跡群』 石川県立埋蔵文化財センター
- 松山和彦ほか 2000 『押水町紺屋町七十苺遺跡』 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 三浦純夫ほか 1988 『竹生野遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター
- 村井一郎 1966 「羽咋郡押水町北川尻オサノ山遺跡」『石川県考古学研究会会誌』第10号 石川考古学研究会
- 村井伸行ほか 1989 『末森城跡』 押水町教育委員会
- 米沢義光ほか 1987 『宿向山遺跡』 石川県立埋蔵文化財センター



冬野遺跡・免田一本松遺跡 (昭和61年)



冬野遺跡 (昭和61年)



冬野遺跡 (昭和61年)



免田一本松遺跡 (昭和61年)





冬野遺跡A区 (西から)



冬野遺跡A区 (東から)



冬野遺跡B区(南から)



冬野遺跡B区(南側)(北から)



冬野遺跡B区(北側)(北から)



冬野遺跡C区(東から)



冬野遺跡D区 (東から)



免田一本松遺跡 (東から)



免田一本松遺跡(西から)



冬野遺跡A区調査前



冬野遺跡B区調査前



冬野遺跡C区調査前



冬野遺跡D区調査前



A区 SD01



A区 SD01土层



A区 SK01



A区 SK01土层



A区 SK02土层



A区 SK02土层



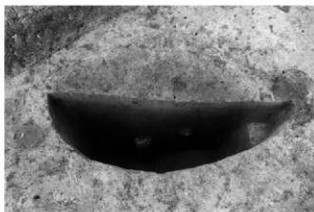
A区 SK03



A区 SK03土层



A区 SK04



A区 SK04土層



A区 SK09



A区 SX01



B区 SI01床面



B区 SI01床面



B区 SI01



B区 SI01壁溝内遺物



B区 SI01床面下面



B区 SI01土层



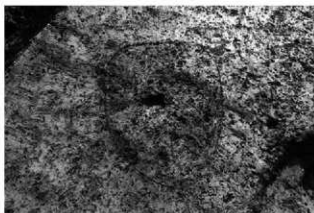
B区 SI02



B区 SI03



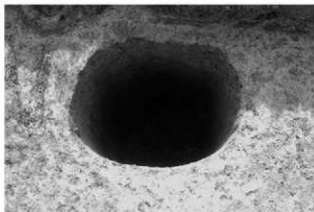
B区 SI03烧土面



B区 SI03烧土面



B区 SK05

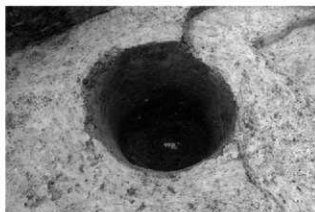


B区 SK07





B区 SK08



B区 SK10



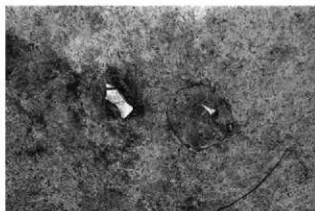
B区 SK06



B区 SK06土層



C区作業風景



C区出土遺物



D区作業風景



試掘調査作業風景



調査区から望む宝達山



試掘坑 NO. 1 土層



試掘坑 NO. 2 土層



試掘坑 NO. 3 土層



免田一本松遺跡より望む冬野遺跡



冬野遺跡丘陵裾土器出土地点



冬野遺跡丘陵裾土器出土地点



冬野遺跡丘陵裾土器出土状況



免田一本松遺跡調査前



免田一本松遺跡表土除去作業



免田一本松遺跡作業風景



免田一本松遺跡作業風景



免田一本松遺跡調査区



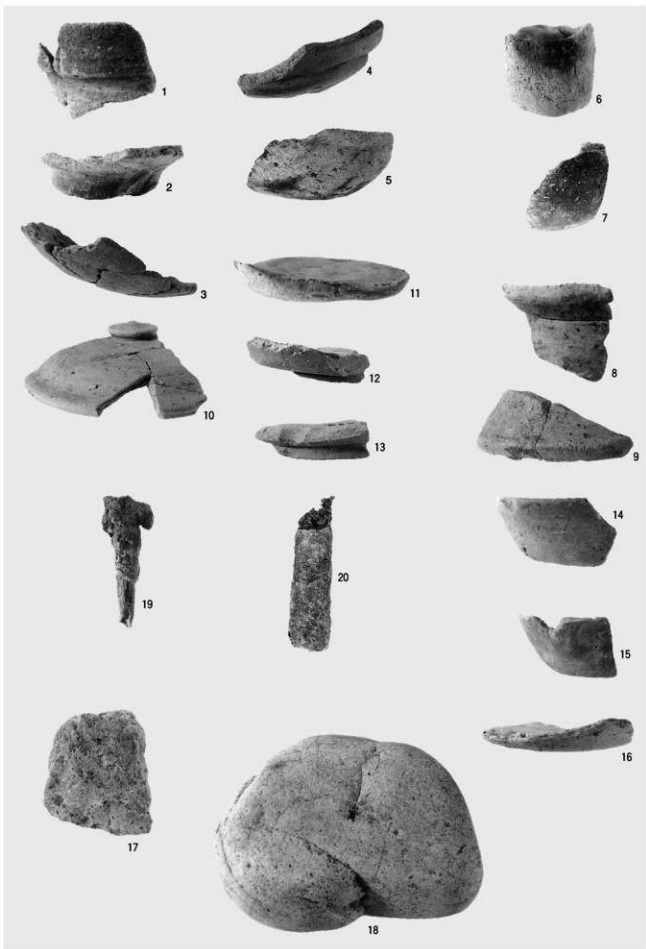
免田一本松遺跡調査区土層



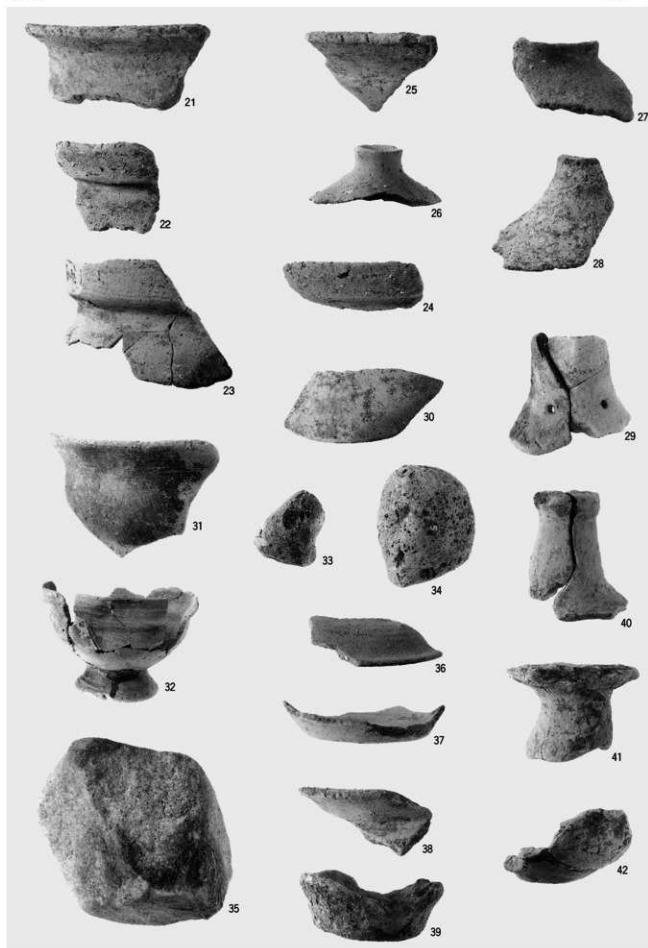
免田一本松遺跡 P01土層



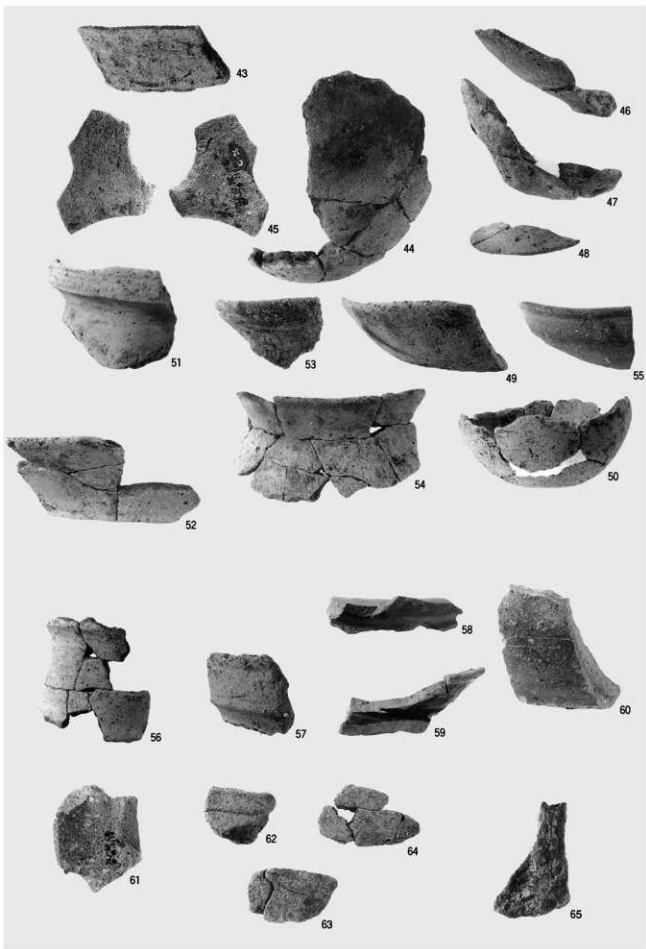
免田一本松遺跡 P01



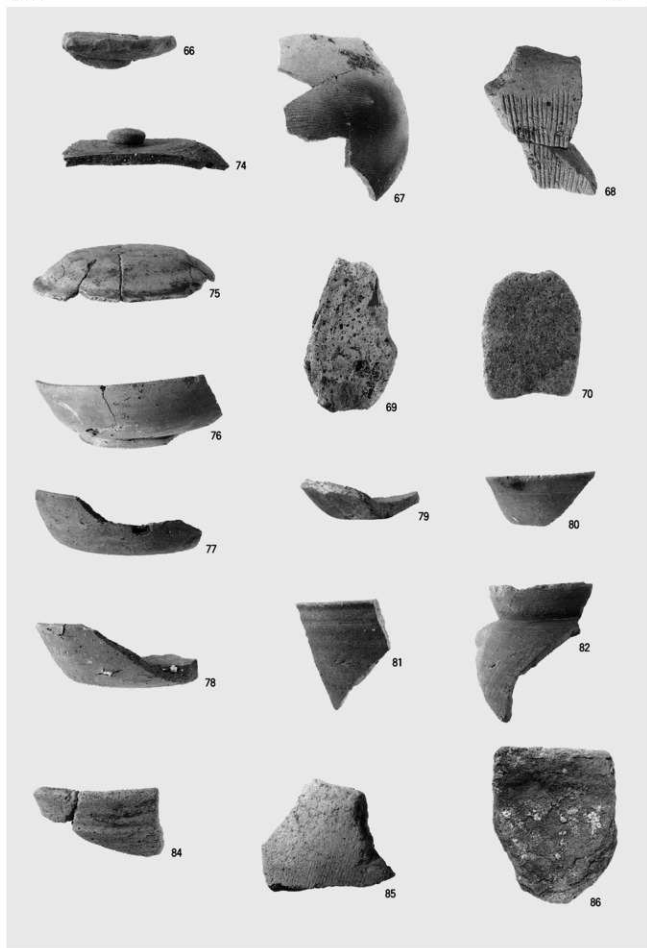
出土遺物(1)



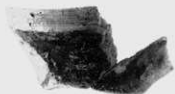
出土遺物(2)



出土遺物(3)



出土遺物(4)



71



72



73



83



報告書抄録

ふりがな	ほうだつしみずちょうふゆのいせき・めんでんいっぽんまついせき							
書名	宝達志水町冬野遺跡・免田一本松遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業（北大海地区）							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	本田秀生							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-1560							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
冬野遺跡	ほうだつしみずちょう 宝達志水町 冬野	173860	30018	36度 46分 50秒	136度 45分 34秒	20020918 ～ 20021224	510㎡	県営ほ場 整備事業 (北大海 地区)
免田一本松遺跡	めんでんいっぽんまついせき ほうだつしみずちょう 宝達志水町 冬野	173860	30014	36度 46分 27秒	136度 45分 31秒	20021126 ～ 20021210	200㎡	県営ほ場 整備事業 (北大海 地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
冬野遺跡	集落跡	縄文時代	落とし穴	石器		楕円形を呈する落とし穴を3基確認した。		
	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡、土抗	弥生土器、石器		大形の円形ないしは多角形を呈する竪穴住居跡を確認した。		
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	土師器、石器、鉄器		コーナーに焼土面を持つ竪穴住居跡の残欠が検出された。		
免田一本松遺跡	集落跡	弥生時代	土抗			丘陵から低地部への移行点で貯蔵穴と思われる土抗を確認した。		
要約	冬野遺跡 丘陵緩斜面に位置する縄文から古代の遺構、遺物を確認した。縄文時代では落とし穴が確認され端を捉えた。縄文時代では落とし穴が確認され狩猟の場であったことが理解される。弥生時代では大形の竪穴住居跡が発見され、それなりの規模を持つ集落跡が想定できる。古墳時代では竪穴住居跡残欠が確認され、集落内に竪穴住居跡の存在が確認できた。							
	免田一本松遺跡 丘陵から低地部への移行点で貯蔵穴と思われる土抗を確認した。貯蔵穴が低地部に分布する可能性を示唆する資料と思われる。							

宝達志水町 冬野遺跡・免田一本松遺跡

発行日 平成17(2005)年3月31日

発行者 石川県教育委員会  
〒920-8575 石川県金沢市桜月1丁目1番地  
電話 076-225-1842 (文化財課)

財団法人石川県埋蔵文化財センター  
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1  
電話 076-229-4477  
E-mail address mail@ishikawa-muibun.or.jp

印刷 福島印刷株式会社